

「疎開した40万冊の図書」 映画の流れに沿ってひも解く

2014年7月15日（第9回）

2014年度JLA中堅職員ステップアップ研修（2）

領域：トピック

金高 謙二（映画監督）

○ 自己紹介

① 「疎開した40万冊の図書」を作ろうとしたきっかけ

ラジオ番組→なぜ今まで露出されていないのか？

テレビ局→目玉は？お宝はあるのか？

製作資金をどうするか？

② 元々のタイトルは「40万冊の図書」だった。チラシの違い。

③ 本と映画の違い

シナリオは映画の設計図→イメージーションを膨らます

④ 映画の核となる人物

中田邦造

反町茂雄

長谷みどり→日比谷図書館創立90周年で調べた人

元一中生→本を運んだ

生き証人がほとんどいない。

⑤ 映画の進行に合わせて各箇所について感想と説明→これで良かったのか？

⑥ 冒頭の映像 国会議事堂→なぜ？

⑦ 国立国会図書館

⑧ 「真理がわれらを自由にする」→真理に基づかない政治に対して引用された。

新約聖書に由来する言葉。

⑨ 千代田区立日比谷図書館→

「汝等は汝等に与えられた自由にあたいするや」

→傲慢な人間に対する戒めの言葉とされる。

## 「疎開した40万冊の図書」 映画の流れに沿ってひも解く

- ⑪ 2010年6月 撮影開始 2009年千代田区に移管。  
内装工事中 引っ越しは2ヵ月に及ぶ  
都立日比谷図書館は、1908年11月、市民の誰もが利用できる図書館を目指し、  
東京市立図書館第1号として日比谷公園内に建てられた。  
木造漆喰煉瓦葺き、当時は東京百建築の一つと言われた。
- ⑫ 1998年 日比谷図書館90周年記念事業 長谷みどり 官報ひびや
- ⑬ 阿刀田高（作家、元国立国会図書館職員、現山梨県立図書館長）  
なぜこの人をインタビューしたのか？
- ⑭ 早乙女勝元（作家、東京大空襲・戦災資料センター）
- ⑮ 官報ひびや 元日比谷図書館職員 秋岡悟郎  
「かくして文化財はまもられた」民間重要図書買上疎開事業の記録  
昭和17年に図書疎開のことが真剣に問題にされ出した。
- ⑯ 旧帝国図書館（国立国会図書館 国際子ども図書館）  
133, 400冊を長野県立図書館に疎開した。
- ⑰ 日本全国の主要な図書館でも疎開をした。

### 日本各地の図書館の疎開

昭和一八年一二月、図書の疎開は、日本各地で国策として進めるよう指示が出された。「図書館雑誌」（日本図書館協会 一九四四）にはそのことが書かれている。

〈昭和一八年一二月二二日、文部省主催で文部省第一会議室において都道府県中央図書館長並びに事務担当官会議が開催された。文部省教学局長訓示、大政翼賛会国民運動局長あいさつ等があり、その後、文化課長から指示事項が述べられ、読書会や図書優配に続いて図書館事務に関する注意事項のひとつとして貴重図書の疎開も指示されてる。〉

日本全国で疎開が行われた図書館の年表がある。

（奥泉和久『近代日本公共図書館年表 一八六七～二〇〇五』日本図書館協会 二〇〇九年）この年表には疎開をした図書館だけではなく空襲で焼失または被災した図書館も書かれている。

〈昭和一九（一九四四）年

三月七日 東京帝国大学文学部の貴重書を（千葉）成田図書館に疎開。

九月三〇日第二回目の疎開。昭和二〇年八月六日福島県へ再疎開。

七月一日 東京帝国大学法学部研究所図書館蔵書を（千葉）興風会図書館に疎開。

「疎開した40万冊の図書」 映画の流れに沿ってひも解く

(～昭和二〇年八月一日)

八月一〇日 東京帝国大学附属図書館第一次図書疎開 (山梨県へ木箱三〇八箱)

昭和二〇年一〇月大学へ戻る。昭和二〇年六月十日第二次疎開。

(木箱五〇箱)

八月二二日 帝国図書館、特殊文庫・貴重書・帝国学士院その他の依頼本・洋書など  
約三四〇〇冊を県立長野図書館に疎開。

[翌昭和二〇年飯山女学校に再疎開。]

昭和二〇(一九四五)年

三月九日 (愛知) 豊橋市立図書館、漢書のうち貴重なものを公益質屋倉庫に疎開。

三月二七日 富山県立図書館、蔵書六五〇〇〇冊を疎開。(昭和二〇年七月まで)

[その後、八月二日、空襲により全焼、蔵書三五〇〇〇冊を焼失。]

三月二七日 県立奈良図書館、貴重図書の疎開開始。

三月二九日 大阪府立図書館、貴重図書の疎開開始。

三月 都立日比谷図書館、疎開開始。

三月 静岡県立葵文庫、貴重図書を市外に疎開。

三月 [前橋市立図書館、館舎を憲兵隊に明け渡し別の場所に移転、重要図書を  
疎開。]

四月一日 金沢市立図書館、図書疎開のため休館。

四月 宮城県図書館、蔵書を数回に渡って疎開。

[その後八月八日に本格的に疎開。]

四月 新潟県立図書館、貴重書を分散疎開。

四月 県立宮崎図書館、蔵書を疎開。

六月七日 県立鳥取図書館、蔵書の疎開を開始。

六月一〇日 県立岐阜図書館、市内の寺院に郷土資料など一五〇〇〇冊を疎開

(～六月三〇日)

六月一七日 鹿児島県立図書館、重要書類等を伊敷の青年師範の防空壕へ疎開。

六月二二日 県立山口図書館、貴重書を疎開。

六月二七日 県立秋田図書館、貴重書を南秋田郡豊川村に疎開。

六月二七日 徳島県立光慶図書館、阿波国文庫中希観本を疎開。

[その後七月四日、空襲により被災。]

七月一日 三重県立図書館、貴重書および郷土資料などを疎開。(～七月一五日)

[その後七月二八日、館舎と一九〇〇〇冊の蔵書を焼失。]

七月一二日 水戸市立図書館、図書を疎開、休館。

七月一三日 福井市立図書館、蔵書を花月国民学校へ疎開。(～七月一五日)

「疎開した40万冊の図書」 映画の流れに沿ってひも解く

- 七月一三日 県立長野図書館、蔵書の疎開を開始。
- 七月一六日 和歌山県立図書館、空襲激化のため郷土資料を那賀郡真国村に疎開。
- 七月二〇日 岩手県立図書館、貴重図書疎開。
- 七月二〇日 山形県立図書館、蔵書を東沢村蓬萊寺に疎開。
- 七月 (福井) 敦賀市立図書館、敦賀市国民学校に移転、疎開。
- 八月四日 (愛知) 豊橋市立図書館、貴重図書を愛郷国民学校へ疎開。
- 八月九日 (青森) 弘前図書館、郷土資料を疎開。
- 八月 県立佐賀図書館、貴重書の一部を疎開。
- 八月 (島根) 松江市立図書館、強制疎開の命を受け館舎を明け渡し、市内川津出張所を戦時分館として業務続行。
- 日付不明 山梨県立図書館、一部図書を北巨摩郡下の神社に疎開。

空襲で焼失または被害を受けた図書館

昭和二〇（一九四五）年

- 四月一五日 (神奈川) 川崎市空襲により川崎市立図書館、私立大師図書館が焼失。
- 五月二五日 空襲により日比谷、麴町、三田、中野、寺島、渋谷各図書館全焼。
- 五月二九日 横浜市大空襲、図書館は焼失を逃れるが、罹災者を館舎に収容、混乱する。
- 六月一八日 (静岡) 浜松市立図書館、建物と三五〇〇〇冊の蔵書を焼失。
- 六月一八日 (三重) 四日市立図書館、空襲により旧館舎と一七〇〇〇冊の蔵書を焼失。
- 六月一九日 福岡県立図書館、福岡市空襲で蔵書とともに全焼。
- 六月二〇日 静岡市大空襲により静岡県立葵文庫講堂などを焼失。
- 六月二九日 岡山市空襲により岡山県立図書館（一六〇〇〇〇冊の蔵書）、岡山図書館（七〇〇〇冊の蔵書）焼失。
- 六月二九日 (福岡) 門司市立図書館、空襲により焼失。
- 七月一日 (山口) 宇部市立図書館が被爆して、建物、蔵書の一切を焼失。
- 七月二日 県立熊本図書館、熊本大空襲により建物全焼。蔵書八三〇〇〇冊焼失。
- 七月三日 (兵庫) 姫路図書館、戦災により全焼。
- 七月四日 徳島県立光慶図書館、空襲により被災。
- 七月四日 香川県立図書館、高松空襲で約九〇〇〇〇冊の蔵書と表誠館を焼失。
- 七月四日 高知県立図書館、戦災により焼失、疎開寸前の蔵書一三〇〇〇〇冊も灰燼に帰する。
- 七月六日 市立甲府図書館、空襲で被災。
- 七月七日 清水市立図書館、空襲で全館全書焼失。
- 七月九日 仙台空襲により宮城県図書館本舎および書庫、附属建物等、蔵書とともに焼失。

## 「疎開した40万冊の図書」 映画の流れに沿ってひも解く

- 七月九日 県立岐阜図書館、空襲により館舎、資料とともに焼失。
- 七月九日 和歌山県立図書館、和歌山市空襲により貸出文庫用図書七〇〇〇冊焼失。
- 七月一六日 県立大分図書館、空襲により全館焼失。
- 七月一九日 市立福井図書館、空襲により焼失。
- 七月二〇日 (愛知) 岡崎市立図書館戦災のため焼失。
- 七月二六日 (大阪) 堺市立図書館、堺大空襲により書庫を除いて全館焼失。
- 七月二六日 (山口) 徳山市が被爆し、児玉文庫は一切を焼失。
- 七月二八日 青森県立図書館、青森空襲で書庫を残して焼失。
- 七月二八日 (愛知) 一宮市立図書館、戦災のため焼失。
- 七月二八日 三重県立図書館、空襲により館舎と一九〇〇〇冊の蔵書を焼失。
- 七月 (愛媛) 私立伊達図書館、被災全焼。
- 八月一日 (新潟) 長岡市空襲、互尊文庫罹災壊滅。
- 八月二日 水戸市空襲により茨城県立図書館、水戸市立図書館の館舎・蔵書等焼失。
- 八月二日 (東京) 八王子市立図書館、戦災により全焼。
- 八月二日 富山市空襲により富山県立図書館館舎全焼、蔵書三五〇〇〇冊を焼失。
- 八月六日 原爆により広島市壊滅、広島市立浅野図書館、疎開中の貴重書残し全焼、職員一五名のうち四名死亡。
- 八月八日 (福岡) 八幡製鉄所図書館、空襲で焼失。
- 八月九日 長崎市に原爆投下、県立長崎図書館、本館庁舎罹災。
- 八月一三日 (鹿児島) 阿久根市立図書館、空襲により全焼。
- 八月一四日 (群馬) 伊勢崎市立図書館、空襲により館舎、蔵書焼失(ただし三階建ての書庫は無事)。  
数度の空襲で沖縄の図書館が壊滅、沖縄県立沖縄図書館、古文書などの郷土資料を羽地村の大湿地帯に疎開したが、戦争で散逸。)

⑱ 1943年7月1日、東京市と東京府が合併して東京都が誕生。それにより、「公立図書館の一館を中央図書館に指定する」図書館令が作られ、同年10月12日付けを持って都立日比谷図書館が東京都の中央図書館の指定を受けることになった。

⑲ 当時28あった都立図書館は、日比谷図書館長の指揮監督の下に運営されることになった。都立日比谷図書館では疎開の問題もあり、この際館長には、豊富な見識と経験を持った専門家を迎えることにした。

⑳ 東京帝大の司書官をしていた中田邦造が選ばれた。

(21) 北陸学院短期大学名誉教授 梶井重雄(100歳)「非常な情熱家でね、非常に暖かいといふかな、心の美しく、暖かい方やったね。だから、だれでも中田さんに会おうと親しみも感ずるといふん

で、特にリーダーは、中田先生を父親みたいに感じておったんですよ」

(22) 中田邦造について

中田邦造は、明治三〇（一八九七）年六月一日、滋賀県甲賀郡柏木村字宇田四六七番地（現在の甲賀市）に、父己之助、母はるの長男として生まれた。甲賀郡水口尋常小学校を明治四一年に、高等小学校を明治四五年に卒業。父親の己之助が高等小学校時代に亡くなり、家業を継ぐか進学かで悩んだが、家族と教師の協力を得て、秀才の集まる膳所中学校を卒業したのは二〇歳になってからと遅かった。その後第八高等学校（現名古屋大学）を経て、大正九（一九二〇）年に京都帝国大学哲学科に入り、西田幾多郎の門下になった。

西田幾多郎（一八七〇～一九四五）は、京都学派の創始者として日本を代表する哲学者である。中田はその哲学の教えを西田から直に乞うた一人であった。中田は高校時代から禅の道に入り、大阪・高槻に少林窟道場を開いた飯田とう隠と親交を持ち、度々坐禅を組んだ。この「禅」と「西田哲学」が後の中田の人間形勢に大きな影響を与えている。中田は首席で大学を卒業、大学院に進んだが、大正一二年に一年志願兵に志願したのを機に中退、除隊後は、恩師西田幾多郎の郷里石川県に移り県の主事になった。このとき二八歳であった。

中田は、学校教育と図書館教育との原理の差を、学校教育が「教えること」を中心とする教育であるのに対して、図書館教育は「学ぶ心」を主体とする教育である。「教える」教育には、終了や卒業があるが、「学ぶ心」を主とする教育は、幼童から老成人にまで、終生持続するものであるという。その具体的なあり方は、あらゆる階層にいかにして適書を、或は図書群を与えるかは、図書館側の創意工夫を要することであり、石川県における読書会方式が誕生することになる。

また、中田は読書学級についてこう書いている。

〈「経済的な理由で勉学が妨げられている優秀なる地方青年に読書力を得させ独学の便宜を与へ多少の指導を加えんとする企」であって、二〇歳から三〇歳見当の青年を一町村から五、六名から一〇名位見つけ出し、近隣数か村を併せて四～五〇人ばかりの学級を編成し、之に相当選択を加え、組織立をした一〇〇冊ほどの図書を供給して、時々集合せしめて読書指導をなしつつ約三か年間に読了せしめんとするものである。所要図書の選択には「天下の多数の識者に問い合わせを發して四、五〇〇冊の推薦を受けてはいるが、更にその中から成るべく当地方青年に適応する程度のもの一〇〇冊ばかりを抜いて充当したい」

〔読書学級の図書は、最終的に新刊の五〇冊になり、中田は月一回の各読書会に出席した。昭和八年の読書会で最も読まれた本は以下の通りである。〕

新渡戸稲造著『東西相触れて』二九人

暁鳥敏著『阿弥陀仏の本願』二八人

トルストイ著『人生論、我等何を為すべきか』二二人

ヴァン・ルーン著『世界文明史物語』二一人

福田徳三著『流通経済講話』一九人

柳田国男著『都市と農民』一八人

タゴール著『創造的統一』一八人

ガンディー著『文集』一八人

高橋亀吉著『経済学の実際知識』一八人

その他一〇人以上が読んだ本の中に、

マルクス著『経済学批判』

エンゲルス著『空想的及科学的社会主義』

河上肇著『経済学大綱』

福沢諭吉著『福沢選集』

柳田国男著『日本農民史』

本間久雄著『文学概論』

#### 植民地図書館

日本は、国内のみならず、侵略し植民地とした国々に図書館を開設し、日本文化を他国の民族に押し付けた。樺太、台湾、満州、朝鮮、中国占領地域、シンガポール等の南方地域、そこで図書館を足場に大東亜共栄圏構想が展開した。

『日本の植民地図書館 アジアにおける日本近代図書館史』（加藤一夫、河田いこひ、東條文規 社会評論社 二〇〇五）の台湾についての記述を見てみよう。

〈一九三七年、文部省は、中央図書館制度を導入して、社会教育行政の中央集権化を図った。これに対応して、台湾総督府図書館も台湾の中央図書館となった。そこで、総督府図書館は、地方公共図書館の育成指導、良書の普及、図書館網の整備などで強い権限をもつことになった。山中樵総督府図書館長は、すでに中央図書館制度の導入以前にも、三五年一月に第一回「全島公私立図書館長会議」を開催して、図書館界への指導を強化し、状況を先取りしていた。こうした「皇民化政策」に対して、それに呼応する動きが広まってくる。各図書館の館報にも、「国語普及は図書館から」、「時局の認識は図書館から」、[臣道実践・職域奉公]などのスローガンが登場してくる。さらに、この時期には、台湾は南方進出の拠点とされるようになった。この足場を確保するために図書館の役割が強調された。その目的のために、一九四〇年九月に「財団法人南方資料館」が設立され、資料収集を中心とする活動を始めた。〉

台湾だけでなく、満州や朝鮮も同じように動いていた。

この書にはさらに帝国図書館長松本喜一が、支那事変の翌年、昭和十三年五月に東京で開かれた全国図書館大会での式辞で皇民化政策に関することを述べていることにも触れている。

## 「疎開した40万冊の図書」 映画の流れに沿ってひも解く

〈「支那人」は、生まれながらにして排日感情をもっている。これを改めさせることが、今日の戦いの最も重要かつ困難な目的である。真に日本精神を理解させ、皇国の精神を徹底させることが日支提携、東洋永遠の平和と繁栄をもたらすことになる。その意味で自分たちの図書館事業は重要な意味をもっている。〔まさに体で覚え込ませるのではなく頭から色に染めていく感じだ。恐ろしい考えである。松本についてこの書ではさらにこう記している。〕一九二八年四月、日本図書館協会は松本喜一帝国図書館長を理事長に推した。以後、松本は一九三一年五月から一九三九年八月まで、日本図書館協会理事長として日本の図書館界を領導する。しかしながら、松本喜一については、当時も現在もその評価は非常に低い。日本図書館協会の正史である『近代日本図書館の歩み 本篇』（一九九三）は、松本理事長時代を次のように評している。「この時代は、日本文庫協会結成以来、家族的雰囲気の中でアカデミズムの良識を堅持しつつ、日本の図書館を育ててきたリーダーたちが、次第に偏向する時代の波に押され、その指導力を失い、役人化し教員や地方の官僚たちにとって代われ、半官半民的な教化団体へと変質していった時期にあたる」〉

1927年、中田の活動が認められ石川県立図書館長に抜擢。  
大政翼賛会中心の読書感運動の行き詰まり。

梶井重雄インタビュー（映画から）

「大政翼賛会というのはね、やっぱりあの、戦争ということが背景にあるんですよ。だから、最後に東条さんが、戦争に読書はいらんといったようにね、読書会に対する真の理解がないんです。そうすると読書がいらなくなるんです。ところが僕らはそれに対してね、本当の人間がね、人格が生まれてね、そして早く、戦争を集結した方がいいと、いうふうに戦争に対するね、否定的な考えがどうしてもあるわけですね、つまり、世界が平和になって、世界の人間が一つになるということを考えたわけです。本当の人格主義はね、戦争否定なんです。そういうものはね、読書会で育つわけなんです。だって、そうでしょ。トルストイもドフトエスキーもみんな世界的だ、そういうものを、マルクスまで読んでるんだからその読書会に入っているんだから。だからね、戦争否定の思想がどうしてもある。」

中田は図書館運動を押し進める中で、当局に逮捕された事がある。その事について、名取二三江は「図書館の学校 図書館人たちの饗宴 第四回 戦時下の図書館疎開に生命をかけた中田邦造」（図書館振興財団）でこう書いている。〈昭和一二年の六月に満州の大連で開かれた第三一回全国図書館大会に中田は参加している。満州での図書館大会から帰った朝、その足で中田は能登の読書会へ出かけたという話は有名だが、中田は翌七月に官憲に逮捕されている。「当時秘密資料だった内務省警保局作成の『特高外事月報』、その昭和一二一年七月分に記録されていた。〉



種別・反軍的言動

所属団体及氏名・石川県立図書館長中田邦造

事件の概要・七月一〇日左翼分子の時事懇談（会員九名出席）において講師として出席し、左の  
ごとき反戦的講演をなしたり。

「上海事変当時日本の陸戦隊は生きている支那人をトラックに積んで海に投じた。これを見ていた  
支那民衆はなんら憤慨することなく、日本人に配達する郵便物のごときは実に正確なものであった  
ということである。日本人はまず相手をなぐってしかるのち争うというような具合で、これがため  
支那群衆の反感を受け、遂には袋叩きにされることが日本人に対する暴行として伝えられているら  
しく、いまや支那民衆の抗日感情は想像以上である云々。」事件の措置・本人に対して厳重に戒告す。

〔さらに、山崎元が寄稿した「図書館雑誌 反核平和の第一義性と言論・報道の自由」Vol.80 No.8  
を引用し〕 「起訴は免れたがこのとき逮捕された中田邦造氏は戦前から戦後にかけての著名な図  
書館人の一人。館界の定評では思想的にむしろ保守的。彼はこの事件を契機に右傾化を強め、戦時  
中は侵略戦争と翼賛政治に積極協力する図書館活動を推進した。』

逮捕から三年後の昭和一五年四月、一三年間勤めた石川県立図書館に別れを告げ、中田は東京帝  
国大学附属図書館司書官になった。四三歳だった。司書官の傍ら中田は日本図書館協会の専務理事  
も兼務する事になった。専務理事として図書館雑誌の編集兼発行を中田は任せられた。

この時期中田は、図書館雑誌に「文献の防護対策」（昭和一八年九月）という小文を寄稿している。  
〈米英による帝都空襲必死の声と共に、我が国の防空陣は急速に強化せられ、人々の心構へも一段  
と真剣味を帯びて来たことが痛感させられる。急きよとりかかった各戸の避難壕掘りもすでに完成  
して、爾来逐次立ち入った対策が進められていることは意を強うするに足ることである。しかし今  
日までのところでは、家屋の火災に対する防備や人体に関する防備に考慮がなされている割合に比  
して、文化財に関する対策には尚至らぬものがありはしないかと懸念される。特にその防護が我等  
の職責に属する図書文献に関する限り我等の手で遺漏なきを期せねばならぬだけに、その方面の準  
備の不充分さは心懸りたらざるを得ない次第である。〉この小文が日比谷図書館で管理掛長をしてい  
た秋岡悟郎の眼に止まり、日比谷図書館館長に推薦されたのである。昭和一九年七月、中田邦造は  
日比谷図書館長となって東大附属図書館を去った。このとき四七歳だった。

そして、図書館にあった蔵書およそ27万冊の疎開を具体的に押し進める計画を立てます。

### (23) 民間の貴重書買上げと反町茂雄

中田は、文化財保護の立場から民間の貴重な図書も疎開させるべきだと考え、  
蒐集家から本を買い上げることにした。

買い上げの評価には、古書に詳しい5人を選んだ。

その中で中心的な役割をしたのが、東京帝大の法学部を卒業し、古書店業界に身を置いた反町茂雄でした。

(24) 稲川明雄 河井継之助記念館館長（元長岡市立中央図書館館長）

「知識で勉強するんじゃない。現場へ行って勉強するんだということを常に言っていた。」

(25) 青木研三（元長岡市立中央図書館館長）

「古本を扱っている人だからね、かなりこうクセのあるですね、難しい人かと思ったんですけどね、実際お会いしたら、もちろん堅い人だけでも非常にメリハリの利いたね、しかもいわゆる一言でいってイギリス型紳士という感じでしたね。」

(26) 反町茂雄とは

反町茂雄は、明治三四（一九〇一）年八月二八日に新潟県長岡市に生まれた。七男四女の五男（九番目）。父茂平は、越後米の仲買業を営み、屋号を丸福商店と称していた。小学校は地元の神田小学校へ入学したが、九歳のとき父の事業発展のため東京に移り住み、東京小伝馬町十思小学校へ転入した。中学は日本大学附属中学へ進み、大学卒業まで長兄茂作の家から通った。高校は仙台二高に一度受験を失敗し、翌年に合格している。このときは寮生活をしている。大正一三（一九二四）年、二三歳の時に東京帝大法学部政治学科に入学。昭和二（一九二七）年に卒業。神田一誠堂書店に住込み店員として入店した。このことが「東大新聞」に紹介されている。

反町さんは出版と古書の仕事をする二つの目的を持って独立したが、“人に使われず・人を使わず” ということを信念として、店を持たずに通信販売の古書店をやり、かたわら出版もやる ということで、表通りではなしに、適当な家を探す ということをしたのであった。私はさらにその時、独立して仕事をするときの名前になぜ弘文荘という名前をつけたのかということをお訊ねしたら、当時出版界において、社会科学、哲学、法律方面でさかんに仕事している京都の弘文堂という出版社の活躍ぶり、しかもそこから出す本は、装丁や紙に注意が払われた立派な本を出すのに感心して、その名前をとって弘文荘にしたのだと、教えてくれた。彼はひとりで自分の家の仕事をした。ひとりで本を買い、また研究して、立派なカタログをつくり、それを発行し、また大事な得意には自分で商品を持参し出かけて行って販売をするという徹底的に個人主義の商売をして、“人に使われず・人を使わず”という原則を徹底的に押し通した。

反町は、多くの貴重本や古文書を発見した。昭和五九（一九八四）年には、土佐日記の原本の姿を藤原為家が忠実に模写した「為家本土佐日記」（一二三五年）を発掘、そして目録に七五〇〇万円の値を付けて発表。これは戦後古書業界最大の事件といわれた。他に近松門左衛門「壬生秋の念仏」、井原西鶴の亡妻追善句集「独吟一日千句」、また、天理図書館などの稀書の整理・調査など、貴重な古書籍など二〇〇〇〇点を発掘した。また、生まれ故郷の新潟県長岡市を愛し、郷土のために寄付を惜しまなかった。

河井継之助記念館には、河井継之助自筆日記の『塵壺』〔幕末の越後長岡藩の家老であった河井継

之助が書いた日記。継之助は戊辰戦争で藩の中立を説いたが、政府軍にいれられず、長岡城に籠城。負傷して落城後に死亡した。]が反町によって寄贈されている。長岡中央図書館には、上杉謙信の書状や直江兼続の巻物等が反町から贈られている。

#### 稲川明雄インタビュー

「長岡は古本の出身者が多いんですよ。反町さんはその古本の古書店のレベルをグンと世界的に日本人の古書能力を、古書そのものの価値と問題はそれを仲介する古書人ですかね、それを愛好する人たちのレベルをグンと上げたと思いますよ。それからもう一つはね、やはり、失われる文化に すごくね、興味持っていて、それに対して自分が守らなければダメだという意識が強くて、私は、それをヒシヒシと感じました。ときあるごとに、われわれに『古いものだから捨てるな、良いものか悪いものか、そういう価値判断をできるような識見をもて』ということを聞かせられましてね。このじいさん、始めはこのじいさん何者だな、よくわからないでね、まあ、じいさんが言ってることはなんか、われわれ図書館人とは反対なんですよ。図書館というのは新しい本を提供して行くのが図書館なんですよ。ところが図書館に古い本を入れるということは回転率が悪くなるから業績につながって行かないんですよ。何いってんだなと思ってたら、価値観をです。われわれの価値観みたいなものを変えて行く革命児だと思いましたね。」

#### 中田邦造と反町茂雄との出会い

反町が、中田と初めて会った日のことを第四章で引用した反町の文章「日比谷図書館の特別買上げ事業」の続きを見てみよう。「図書館雑誌 特集・戦争と図書館資料」（日本図書館協会 一九八〇）

〔中田邦造さんは〕筋の通った、迫力のあるお話しぶりでした。「時局の切迫につれ、帝都にも空襲の危険が間近か、明日にも焼夷弾雨下の可能性がある。疎開をしたいのは誰しもの希望だが、交通及び輸送の能力の絶対的な不足で、人の脱出が精一ツ杯、衣料その他の必需品までは、庶民の手はとどかない。都は緊急処置として、疎開の出来ぬ衣料品を買上げて、都の力で安全な土地に輸送して保管し、平和到来の日に備えたいというので、臨時に一三〇〇万円の予算を計上した」とのお話。「それは結構な御計画、ありがたいことですね」と感じたまま相槌を打つ。

ところが反町さん、売り手がないんですよ。新聞やラジオで、買上げの宣伝をしきりにしているんですが、大事にして手離さない。買ってくれと、持ち込む人はごく僅か。発足してモ一年近くになるのに、使った予算は、やっと二五〇万、現在一〇〇〇万円以上のお金が残って居ります。「最近では、買取り希望者は殆ど全くなく、お金は眠っている。その金を古書の購入に転用する事を、私は企画した。教育局を通じて上申し、ほぼ承認を得て、都長官の西尾寿造大将も賛成して居る。近く十中の九まで実現、発足するについて、購入書籍の評価について、相当信用のできる専門家を必要としている。都の囑託として協力してほしい」とのお話。

## 「疎開した40万冊の図書」 映画の流れに沿ってひも解く

衣料も大切だが、本も大切。殊にかけがいのない貴重な書物を持ちながら、疎開手段がないために、みすみす焼けるのを待つような状態にある人を、私は現に二、三知っています。古い文化財を安全に保護する措置を講ずることは緊要です。私はゼビこの計画を実現し、推進したい。

真摯な態度でした。十分に説得力のあるお話でした。私はすぐ賛成、大賛成でした。できることなら、何でもお手伝いしましょう。だが輸送力は？

それが大きなネックです。都のトラックも、ガソリン不足で、必要の最小限度しか動いていないが、その空いた時には、一台でも二台でも、なんとかして回してもらうように運動します。人の引く荷車も考えておりますが、しかし輸送力の根幹は、学徒動員による、学生たちの肩の力に頼るより外はない、と覚悟しております。

書物をリュックサックに詰め込んで、学生に運ばせようという考え。よほど多人数を要することでしょう。「少し頼りないなあ」と感じました。すでに二〇人ばかりの中学上級生を借りて、館の蔵書中、最重要の資料である「東京誌料」の古典籍・古地図等を、片っ端からリュックで疎開している。とのお話もききました。いずれにしても、やらぬに勝る事は万々。買入れた古書にランクをつけて、重要・貴重なものから先に運ぶことにしましょう、そんな話も出ました。私はスッカリ本気になりました。初対面から二時間ほど、トックリと懇談し、具体的にいろいろな打ち合わせをし、とにかく大至急に実現するように、一般の御努力をお願いしました。お話を伺っているうちに、いろいろの事情で、館に予算のない雑費を要することがしばしばで、その出所のないことも悩みの一つ、という意味のお話も出ました。真剣な、しかも情熱のこもったお話に、感激性の強い私は、スッカリ昂奮して、ちょうど金庫の中に在り合わせた二〇〇〇円のお金をとりだして、白紙に包んで、雑用の浄財として寄進しました。思いがけないハプニングに、一旦固辞されましたが、終には誠意を汲んでくださいました。古い形容ながら、「一見旧知の如く」で意気はまったく投合しました。私と特別買上げ事業とのつながりは、このようにして始まりました。

### (27) 図書館の役割

阿刀田高「図書館というもの、本というものが、人々の知性を高め、国家の力となるという考え方は、よき良識を持った人、為政者の人の中にはちゃんと伏在していたと思います。一つの国家が大きな力を持って成立するとき、やっぱり自分たちの文化遺産を残しておきたいということと、常にそれは国力を増強したいという意味もあるでしょうけども、やはり民度を高めなければ、ちゃんとした国家は成り立たないという、ごくごく普通の考え方を持つ、為政者がいてですね、それが図書館を作るという作業になって行ったんだと思いますね。」

### (28) 図書を運んだ人々と受け入れた人たち

運ぶ作業をしたのは都立1中生と高輪商業生のあわせて50人。

終戦の年の6月から図書を運ぶ作業に携わった。

「まあね、我々学生ですしね、専門書なんかの内容は判りませんしね、そういうゆとりはなかつ

たですよ」

「そう、もうようするに割り当てられた分をさ、ようするにリックに入れてね、運んだという、本当に運ぶ機械でした。電車でね行ったりね。それからトラックで行ったりね。」

「しかも木炭車でしたからね、途中でエンコしたり（笑う）」

いま、昔は多西村って言って、いまあきる」

「あきるだね」

「志木、埼玉県の志木ね、そこの農家の土蔵を借りて、その土蔵に運んでたんです。」

日比谷から西へおよそ50キロ。多西村がありました。

本を運ぶ手段は、電車や車、そして大八車が使われました。

「多西村に行くときは、立川と拝島の2カ所で乗り換え、東あきる野で下車、土蔵がある家まで歩いた。」

「袋は非常持ち出し用の丈夫なズタ袋、10キロくらい本を入れて、上を縛り、重くて大変だった。」

「一日、一往復で一班十人くらいで、図書館の人の指示で作業をした。」

「蔵書家を訪ねて本を運搬したこともあった。柳田国男先生のお宅を訪ねたときのことが印象に残っている。書齋に通され、先生が、この本この本をと指示なさった。そのとき、先生が九州に疎開してきた沖縄の人たちが、非国民のような言われかたをしていることに憤り、日本はもっと沖縄を大切にしなければいけないと、沖縄のことを大変心配なさっていた。」

「そういうのに従事するとね、特別にね、全体が米も配給だったでしょ。それでね、なんていうかな、特別にね、そういう仕事に従事していると、東京都が認めて、特配というかな、それこそ今だったら食べられないような、そのお餅みたいな粟餅みたいな、もう、配給でくれたりしたんですけど、やっぱりそれもむさぼり食べたですよ。」

田中治平「時々図書館の方が、見に来てくれまして、私の古い家がそこにあっただんですけど、縁側、縁側っていうんですけど、そこで、話していたら、ま、その当時、アメリカのP51だっという戦闘機が来て、ま、凄く低く飛んできて、慌てて、うちの中へその日比谷図書館の方と家族が土足で逃げ込んだというのは、あの覚えてはいますけども。」

あの、この屋根の改修のときにこの白い壁の中に、このくらいの、ま、機関銃っていうのかな、弾が入っていたんですけども、終戦後数年経ってから判りました。」

西川武重郎「日本の警察がね、案内をしてMPが先導して、トラックが何台か来たという記憶はあります。家族は一ヶ所に集まれということで、この部屋に全部集めさせられて、私は小学校1年だったから、学校に行かなくちゃいけないというので、ランドセル背負って、家を出ようとした時にMPが私のこめかみにピストルを突きつけたと。その時に祖母が絹を裂くような悲鳴をあげて、私とMP

## 「疎開した40万冊の図書」 映画の流れに沿ってひも解く

の間に割って入ったのを記憶しています。ただやっぱり、祖母の肌の温もりの方が強く残っていますね、あとこめかみにピストルの突きつけられた冷たい印象がかなり後まで覚えてました」

### (29) 本を運ぶ中で最も困難を極めた日

「当日は朝から曇っていたがとうとう午後から大雪になり、夕方には大空襲があって大変な日でした。

第2班は府中まで直行して地方事務所で待機していたんですが、1班は夕方近くなっても来ない。連絡もなく皆空腹で心配していました。

その頃1班は雪で車が引けなくなり、それでも烏山小学校まで何とか運び、そこに荷物を預けて帰ったそうです。

その後2、3日して烏山から雪の中を府中まで引き出し、事務所に格納して預け、3月2日、残雪の中を多西村まで難行苦行して、夜の8時に運び込みました。」

### 大漢和辞典秘話

大正末期、東京神田錦町に大修館書店を創業した鈴木一平は、漢字の研究者の諸橋轍次に嘆願し、30数年の歳月を費やし、戦災に遭いながらも全13巻に渡る世界最大の漢和辞典を世に送った。

諸橋轍次大漢和辞典 大修館書店で出版されている世界最大の漢和辞典。大修館書店の鈴木一平（当時38歳）が大正から昭和の初期に移り変わる時、「いやしくも出版は天下の公器（公共の役に立つもの、公共機関）である、一国文化の水準とその全貌を示す出版物を刊行せねばならぬ。これこそ出版業者の果たさねばならぬ責務である」と固く信じ、先ず生命力の永い良い辞書の出版を考えた。そこで漢字の研究者、漢学者と知られていた諸橋轍次に漢和辞典出版のお願いをした。ちなみに諸橋轍次は直江兼統の子孫。なかなかうんと返事しない。鈴木は根気よく足を運び、1年3ヶ月あまりたって、ようやく1929年（昭和4年）漢和辞典の製作が開始した。そして戦争に突入、物資の無い中で昭和18年9月10日、第1巻を発行した。その後、戦況の悪化に伴い昭和20年2月25日の大空襲で、組み置き原版と印刷途中の第2巻は灰と化した。しかし、この時、奇跡的に戦災を逃れたのが校正刷りの原稿が疎開していたため。戦後これらを元に鈴木は、子どもたち3人を大学から退学させ、親子2代で出版にこぎつけたのである。それが大八車で運んだ物だと言われている。

戦後、再開をし、昭和30年ようやく全13巻ができ上がった。大漢和辞典は2000年に補巻を出しているの、実際に完成までには75年の日数を費やしている。

### (30) 中田邦造の思い

個人の蔵書家が持つ貴重図書の買い出しに奔走していた中田と反町は、毎日朝8時から夜9時まで昼夜の空襲をかいくぐり働いていました。反町はこう言っています。

反町「4月末頃の日、山の手方面から帰途の夕方、国電の中、新宿あたりで、前夜の空襲の残り火が、吹く風にあおられて、また燃え上がったのをみました。ちょっとした危機感が走りました。つり革につかまりながら、中田さんは『私はこの仕事のために死んでもよい』とつぶやかれました。とっさの感激に打たれて、すぐに「本当ですね」と応えました」

### (31) 遺された図書

都立中央図書館の5階特別文庫室と千代田区立日比谷図書文化館4階特別研究室に保管されている。吉田和代「本は2種類に分けられ、大正天皇のご即位で出た御下賜金をもとに購入された江戸にまつわる東京誌料と呼ばれるもの。

もう一つは戦時買い上げで中田邦造が蒐集家から買い上げた本です。それらは所蔵していた人の名をとって何々文庫と呼ばれています。

現在ここには、2種類の本を併せておよそ20万冊が保管されています。」

### 貴重書の一覧とその内容

中田邦造らが蒐集家から買い上げた貴重書の一覧が残されている。そこには、戦後の状態を示す冊数が記されているものもある。まず、昭和三七（一九六二）年二月時点の調査結果が記載されている「館報ひびや」（五三号 都立日比谷図書館 一九六二年九月）から、疎開した本の全貌を見ていこう。

#### 〈民間重要図書買上文庫所蔵調

文庫名	旧所蔵者	内容	取得部数	現在冊数
加賀文庫	加賀豊三郎	江戸時代刊本古文書	二四〇八〇	二四〇八〇
市村文庫	市村讚次郎	東洋史関係 和漢	三〇一九五	三〇一七五
実藤文庫	実藤恵秀	中国文学 中国書	四六二七	四六二七
井上文庫	井上哲次郎	哲学 宗教 和漢	二六八二三	二四二七六
諸橋文庫	諸橋轍次	東洋思想 和漢	二〇〇〇一	二〇〇〇一
河田文庫	河田烈	佐藤一斎関係 和	四四二一	一八九二
桑木文庫	桑木巖翼	哲学 和洋	八六二〇	五〇二一二

〔以下より現在冊数が記されていない〕

岡野文庫	岡野他家夫	明治文学 和・雑誌	七九四〇	
安藤文庫	安藤正次	言語学 和洋	四三一五	

「疎開した40万冊の図書」 映画の流れに沿ってひも解く

和田文庫	和田万吉	書誌学 和洋	二五三六
坂本文庫	坂本広太郎	教育思想 和洋	七〇九五
片岡文庫	片岡鉄兵	文学雑誌 和洋	一九三九
清水文庫	清水澄	法律政治 和・雑誌	一二四八九
石井文庫	石井小浪	音楽舞踊 洋和	一五五〇
小西文庫	小西重直	倫理学 和漢	一〇四一九
文求堂文庫	田中慶太郎 (山田朝一)	東洋思想 漢	三〇八一
岡文庫	岡鹿門	東洋思想 (鹿門翁遺著) 漢	一六四〇
塚越文庫	塚越停春	東洋史 漢	一〇〇一
山本文庫	山本敬太郎	史学 和漢	九七七
中山文庫	中山文四郎	東洋思想 漢	二九七〇
西田文庫	西田直二郎	東洋思想 和漢	一三六七一
小沢文庫	小沢景勝	史学 和漢	六〇七
渡辺文庫	渡辺金蔵	国学 和	七五八
反町文庫	反町茂雄 (弘文荘)	江戸時代刊本 和・雑誌	一八八二
池田文庫	池田亀鑑	国文学 和	三四二
酒井文庫	酒井宇吉	国文学 和・古文書	六五二
梅田文庫	梅田義彦	史学 和	一四一〇
横山文庫	横山健堂	江戸担庵伝記資料 和	六五五
山田文庫	山田嘉穂	法律 新	一八六七
松野文庫	松野士十	法律 新	二四〇
原田文庫	原田為蔵	キリスト教関係 洋和	一二〇六
金沢 (他) 文庫 (柳田)		キリスト教関係 洋和	五一一
岩垂文庫	岩垂憲徳	教育 和	一五六〇六
谷邨文庫	谷邨一佐	農芸 和	一六六三
宍戸文庫	宍戸 昌	植物学 和標本	七二二
松村文庫	松村新高	工学 洋	八二六
蜂谷文庫	蜂谷 勇	雑書 和	二一五二
江田・水谷文庫	江田勇二 水谷悌次郎	雑書 漢	二〇三五
小室文庫	小室翠雲	雑書 和	四八五六
田中文庫	田中乾郎	雑書 漢	六〇六
深田文庫	深田栄夫	雑書 洋	一五五〇



「疎開した40万冊の図書」 映画の流れに沿ってひも解く

来馬文庫	加藤完厚	雑書	和・新	三〇二
川崎文庫	川崎俊郎	地誌	雑書 和	三〇六
狩谷文庫	狩谷掖斉	拓本	版木	二五

〔合計〕 二三一一六九

桑木文庫には未整理部数が一万八一五三ある。井上文庫、文求堂文庫、岡文庫、山本文庫、反町文庫、酒井文庫、横山文庫、田中文庫は空襲により一部焼失したものがある。)

東京誌料 約四万三〇〇〇冊

物語、草双紙、人情本などの文学書類、長禄年代（一四五〇年代）から昭和に至るまでの地図類、武漢、錦絵、双六類を中心として、地誌、歴史、風俗、伝記、美術、音曲、演劇、娯楽、法制、産業、経済など、あらゆる分野の東京に関する郷土資料の収集。江戸城造営で大棟梁の職にあった甲良家伝来の「江戸城造営関係資料」六四六点は昭和六二年、国の重要文化財に指定されている。

○大日本沿海輿地全図 小図本州東部

伊能忠敬が測量して作成した日本地図「伊能図」の転写図。

「伊能図」には大、中、小図の3種類があって、幕府に上呈された正本（しょうほん）原本は明治6年の火災によって、また、伊能家の控図（副本）も保管されていた東京帝国大学附属図書館と共に関東大震災で焼失。従って全図揃ったものは現存していない。転写図が辛うじてその姿をいまに伝えている。この小図は国内で唯一所在が確認されているもの。1998年4月に発見され、存在が明らかになった。

○江戸城本丸御殿図 江戸城は、何度か火災により焼失。この図は、明暦3年（1657年）の大火のより焼失し、万治2年（1659）に再建された平面図。将軍は4代将軍家綱の時代。29年間安定政権を敷いた将軍。

本丸御殿は、表、中奥、大奥の三つの区域からなっていて、左が南、北へ配置されている。

表と中奥の境界はないが、大奥との境は塀で厳重に区切られている。

天守、天守閣は、ここでは台だけが記されている。実は明暦の大火後遂に天守は造営されなかったということ。

松ノ大廊下 本丸御殿の大広間から将軍様との対面所である白書院に至る

全長約50m、幅4mほどの畳敷の廊下。元禄14年（1701年）3月14日午前10時頃、赤穂藩主浅野ながのり（一般には、浅野内匠頭）が吉良上野介を斬りつけた廊下。ご存じ「忠臣蔵」の重要な舞台です。

重要文化財に指定されている江戸城造営関係資料（甲良家伝来）646点のうち一枚。

○是は御ぞんじのばけ物にて御座候 赤本。初期の草双紙。草双紙とは、江戸時代中頃から江戸で

## 「疎開した40万冊の図書」 映画の流れに沿ってひも解く

出版された絵入り娯楽本、赤本・黒本・青本・黄表紙・合巻（ごうかん）の総称である。この「草」は、草競馬・草相撲・草野球などの「草」とおなじ「一般の～」という意味合いを含むものである。

童話から始まり、次第に成人向けに進化した。赤本は主に幼童向けのお伽話などから合戦物、演劇物等幅が広い。現在残っている赤本は少ない。原型をとどめている本書は、貴重な一冊。

- 康熙字典 は中国の漢字字典である。清の時代、学術振興に力を入れた康熙帝の命により、漢代以降の歴代の字書の集大成として編纂された。編者は張玉書、ら30名で、6年の編集期間を経て康熙55年3月19日（1716年）に完成。全42巻、収録文字数は49,030にのぼり、部首の画数順により、配列されている。この種の字書としてはもっとも完備されていて、以後の漢字辞典、日本の漢和辞典にも大きな影響を与えた。

### 都立中央図書館真野節雄インタビュー

「その戦争の大変な時代にこういう物を残そうという、疎開までしていたということが凄い図書館員として、やっぱり凄いなというか、自分たちが今、こんな時代になったら果たしてそういうことのエネルギがあるのかなって、やっぱり凄いなと思いました。で、私は直していますけども、それって生き延びてきた資料ですので、変な修理をして、例えばここで変な修理をしたがために100年しか持たないようなことになってしまったらとんでもないことなので、直すときも一番気を使うのが安全性っていうか、ずっと残って行くもの、たとえ技術的にちょっとくらい下手でも残って行くような修理をしたいなと思っています」

### (32)世界では

この絵本は、2003年、イラクに侵攻するアメリカを中心とした連合軍から本を守った女性図書館員の実話です。

アリアさんは、3万冊の本を自宅等に隠し、戦禍から守りました。

アリア「2003年の4月18日に図書館が焼失してしまったんです。あのあたりの地域すべて焼けてしまいました。夜8時頃から朝の8時頃まで図書館は燃え続けました。空襲の前から本が焼けて失われることをおそれていたので、車で友人のレストランに運んでそこに隠したのです。私が本を車で運び出していることをある新聞記者が知ったことがきっかけでこのことが広く知られるようになりました。

本が焼けてしまうことは私にとってとてもつらいことだったので、誰かに助けて欲しいと思っていました。私にとって本は子どものようなものです。戦争で焼けているのは私の子どもたちです。悲しみや怒りのせいで疲れていることなども忘れていました。当時、戦争や炎を恐れることなく、本の救出のみを考えていたのです。神がきっと私を守ってくださると信じていました。しかし、全て

## 「疎開した40万冊の図書」 映画の流れに沿ってひも解く

の本を救出することは叶いませんでした。そのことに苦痛を覚えます」

### (33) 飯館村

絵本リレー文庫をインターネットに告知。全国から5万6千冊の絵本が集まった。

東日本大震災の原発事故によって、村民6200人は全員避難、本は持ち出せず残された。

### (34) 昭和20年5月25日 運命の日

3月10日。

早乙女「東京は100回以上の空襲を受けています B29 の。ですので大規模空襲というと、やはり300機以上の大編隊で来ているのが、3月10日、で、2回目が4月12、13日両日にわたる、東京西部方面。例えば、池袋大塚方面ですね。で、3回目は5月24、25の両日で、焼け残りの東京全部が目標です。500機くらいの大編隊で来て、徹底的にやりました。爆撃しました。無差別爆撃ですね。」

3月10日の大空襲により、両国、浅草、本所、東駒形の都立図書館が全焼しました。

両国図書館 全焼

焼失図書18,027冊

浅草図書館 全焼

焼失図書18,847冊

本所図書館 全焼

焼失図書18,607冊

東駒形図書館 全焼

焼失図書10,453冊

3月10日の大空襲では、日比谷図書館は戦禍を免れました。

しかし、5月25日の大空襲で日比谷図書館は全焼。

中田邦造は、反町茂雄や、一中生、残された図書館員たちと一緒に、40万冊という図書を後世に残しました。しかし、中田はもっと救えた本があったと悲しんでいました。

中田「私たちは民間貴重図書を買上げ疎開することによって、多くの文化財を戦禍から守ることができた。しかし、遺憾ながら莫大な既蔵の蔵書を焼失してしまった。

都民の文化性保護の立場に立って、頑固に閲覧を持続しようとして、疎開を躊躇したことによる失敗である」

中田は、だれよりも図書を愛していました。そのため一人でも閲覧者がいた場合、戦局が悪化しよ

## 「疎開した40万冊の図書」 映画の流れに沿ってひも解く

うとも図書館を開け続けたのです。そのため、疎開させるべき時期を逸してしまったのです。

### (35) 陸前高田図書館

陸前高田市立図書館では、8万冊の蔵書が津波の被害を受け全滅しました。

しかし、この本の中から貴重書およそ400冊を取り出し、修復をかけ生き返らせたのです。

月に一度、2台の移動図書館車を使い、市内34カ所を巡回しています。

長谷川「まずは生きるために食べるとか、生活するというのが一番ですけど、やっぱりそれが満たされた後は、心の方ですね、心のその、中を癒すものがないと、やはり人間は生きて行けないのではないかと思います」

陸前高田市立図書館では、2015年以降を目途に図書館の再建を目指しています。

### 飯舘村では

放射能汚染によって避難区域に指定された飯舘村では、2012年7月、市民の手によって5万6千冊の絵本全てを村から運び出し、消毒を行いました。

また、2013年3月から、移動図書館車にこれらの絵本を積み、避難している仮設住宅を巡回しています。

### (36)

元日比谷図書館職員 長谷みどり

「本というのは本当にすばらしいものだと思います。あの、古今東西と言ってしまうまでもすけど、あの、時空を超えていますから、ただ目で見るとか、そういうものでもありませんし、ものすごく広い世界のものだと思います。で、自分をま、作り上げてくれる。私にとってはね。そういうものであったと思います。本当にありがたい、ありがたいものだったですね。今でもありがたいものだと思います」

### (37) 秋岡悟郎の言葉

「戦禍から文化や貴重な文献を守るということは、図書館員だけがいくら一生懸命やってみても、また図書館がどんなに力を入れても結局はだめで、文化財を完全に戦禍から守るためには戦争をやめる以外にはないでしょうか」